

## 令和1年度 事業報告

### 法人本部

(1) 理事会、評議員会の開催状況及びその議案等で、理事会を7回、評議員会を3回開催した。また、本年度は、評議員の辞任があったことから、新評議員を選任するための評議員選任委員会を7月に開催。

(2) 平成30年度決算に係る監事監査を6月に実施。

(3) 令和元年度借入金状況

表の上段は、ちらん敬和の郷建設に係る福祉医療機構からの借入金の年度中の返済状況、下段は、ちらん敬和の郷が市中銀行から借り入れている運転資金の利息の返済状況。

(4) なんさつ障害者就業・生活支援センターの状況

障害者の一般就職に対する支援及び就職後の職場定着に関する支援に併せ、事業主の雇用管理等に係る相談・助言を行う事業で、国及び県からの委託事業。

南薩圏域（南九州市、南さつま市、枕崎市、指宿市）と鹿児島市南部地域が、主な活動地域となる。

(5) 収支の状況

拠点区分の中に、法人本部と障害者就業・生活支援センターのサービス区分を設けている。法人本部の収入の主なものは、自販機手数料、ジョブコーチ受託収入、特定雇用開発助成金、退職金共済運用益等になる。支出の主なものは、法人本部に係る人件費、事務費等。障害者就業・生活支援センターは、雇用安定が国、生活支援・雇用体験が県の委託費であり、委託費で賄えない分をその他として分けている。

### 職員数一覧

上段は、平成31年4月1日現在、下段が、令和2年4月1日現在の職員数で、施設毎、職名毎に表わしている。前年に比べ総数で9名増えているが、7月に開設するサポートセンターら・フロレゾンの要員として、学卒者中心に採用したのが、総数の増えた主な要因。

### 市町村別利用登録者の状況（5頁）

各施設のサービス毎の利用登録者数を市町村別に表したもので、下から2行目がサービス毎の利用登録者数の合計となる。

知覧育成園の入所52名は、日中活動は知覧育成園の生活介護や法人内他サービスの利用で、知覧育成園、けいわの( )書きは、法人内の施設の併用利用者で内数となる。

GH利用者35名のうち( )書きの26名が、日中は自法人のサービス利用。

### グループホーム 知覧

(2) 実施状況

ア 福祉事業活動

(ア) 利用状況

定員 41 名に対し 36 名の実利用で、入院等もあって利用率は 82.68%となっている。利用者の多くが法人内の日中活動を利用しており、グループホーム単独での行事としては、地域の清掃活動への参加や忘年会等となる。

障害者支援施設 知覧育成園

(1) 福祉サービスとして、施設入所・短期入所に併せ、入所者の日中活動の場として生活介護事業を実施している。

(2) 実施状況

ア 福祉事業活動

(ア) 利用状況

施設入所、短期入所共に、前年度の利用率を上回っている。

※ 施設入所利用率：92.90%（前年度：92.48%）

※ 短期入所利用率：35.43%（前年度：12.01%）

生活介護については、障害者自立支援センターぱれっと併用利用者がいることと、定員が 34 名から 40 名になったことから利用率は下回っている。

※ 83.18%（前年度：98.98%）

今後について、施設入所は、現在、定員 50 名に対し 53 名の利用者を維持することと、健康管理の充実による入院等の利用休止の削減を図ること。また、短期入所については、重度障害者にも可能な限り対応し、積極的な受け入れによる利用率向上を図ること。さらに、生活介護の新規利用者の確保に努めることとする。

イ 就労支援事業

鯉節パック製品の単価アップと春雨作業の安定生産により、収益は前年度より若干増えた。平均工賃は前年度に比べ 300 円程増加。

障害者自立支援センター けいわ

(1) 福祉サービスとして、生活介護事業と就労継続 B 型をしている。

(2) 実施状況

ア 福祉事業活動

(ア) 利用状況

生活介護利用率は前年度より 2.31% 下回っている。

就労継続 B 型利用率は前年度より 1.74% 上回っている。

改善策として、利用者の健康や安全管理に努めるとともに、家族・保護者と緊密な連携を図って利用率の向上に努める。

イ 就労支援事業

鯉節パック製品の単価アップと春雨作業の安定生産により、収益は前年度より若干増えた。平均工賃は、前年度に比べ生活介護で 900 円程増加したものの、

就労継続支援B型は若干下がっている。

年間事業実績で主な行事等になるが、知覧育成園とけいわは一体的に活動を行っている。

#### 障害者就労支援センター みらい

(1) 福祉サービスの種類としては、就労継続支援A型と就労継続支援B型のサービスを提供している。就労継続支援A型については、雇用契約に基づく利用となる。

#### (2) 実施状況

##### ア 福祉事業活動、(ア) 利用状況

就労継続支援A型は、定員 16 名に対し、1 名増えて 17 名となり、利用率は 104.93%。就労継続支援B型は、定員 24 名に対し、利用登録 27 名で前年度と変わりはないが、精神障害等で利用が不安定になる方や 2 名の長期入院があり、利用率 89.78%となった。

##### イ 就労支援事業、(イ) 収支

A型の収益は、生しいたけ、乾燥椎茸及び菌床の外部販売の売上で、費用は従業員の人件費や菌床製造の原材料等資材費である。菌床製造の費用の大部分は、製造する菌床ブロックの原材料費であり、製造した菌床ブロックの大部分をきのこ事業で使用し、外部への販売益が少ないため、増減差額がマイナスとなっている。A型で増減差額が 861,000 円の残が出るが、設備等整備積立金として積立てを考えているところ。平均賃金月額は前年度に比べ 5,000 円程度増加した。B型の収益は、かしいやパールライスからの受託作業収入と、軽作業はA型との連携による菌床製造作業、佃煮製造・販売になる。パールライスの増減差額がマイナスとなっているのは、受注が一時的に減少したことによるもの。平均工賃は前年度に比べ 100 円程増加している。

#### 障害者自立支援センター ばれっと

(1) 福祉サービスとして、生活介護事業と市町村事業の日中一時支援を実施している。

#### (2) 実施状況

##### ア 福祉事業活動、(ア) 利用状況

生活介護は、定員 20 名に対し利用登録者数 23 名、利用者平均年齢 54 歳で最高齢 79 歳。高齢化、重度化に伴う入院や、法人内他施設の併用利用もあり、利用率は 79.13%となった。

利用者の高齢化、障害の重度化・多様化に伴う疾病による入院、通院同行の増加への対応と、通所利用者の保護者の高齢化に伴う入院、通院時のショートステイ増加への対応等が今後の課題となるが、利用者の立場に立った一層のサービス充実に努め、新規利用者の確保に努める。

#### 自立支援センター ハーモニー

(1) 福祉サービスとして、生活介護事業と市町村事業の日中一時支援を実施している。

(2) 実施状況

ア 福祉事業活動、(ア) 利用状況

生活介護は、定員 20 名に対し利用率が 99.20%。日中一時支援は一日平均 5.06 人の利用があった。

イ 就労支援事業として、規模は小さいが、生活介護利用者の方も働いて収入を得る喜びを味わっていただくため、食品の袋詰め、チラシ折込み等の作業を行っている。

就労支援センター ハーモニー

(1) 福祉サービスとして、就労継続支援 B 型と就労移行支援事業を実施している。

(2) 実施状況

ア 福祉事業活動、(ア) 利用状況

就労継続支援 B 型は、定員 25 名に対し利用率は 83.91%となっている。

就労移行については、一般就労を目指す事業であって、昨今の人出不足の状況から利用者確保に苦慮している状況であり、定員 10 名に対し利用率が 31.49%となっている。

イ 就労支援事業のキッチン事業は、鹿児島市から委託を受けているふれあい会食などが順調だったのに対し、きのこ事業は、全体的に収穫量が少なかったため、売上が減少した。原因として、前年度は 705 号、788 号の品種を並行して栽培していたが、705 号の発生量が少なく、十分に各店舗に供給できなかったことが原因と考えられるため、今年度は、発生量の多い 788 号のみで栽培を行って売上増加を目指している。

平均工賃は前年度に比べ 100 円程増加している。

19 頁から 21 頁の年間事業実績について、行事等は両ハーモニーで一体的に行っており、利用者が楽しみにしている外出活動を月に 1 回行っている。

サポートセンター る・トレフル

(1) 福祉サービスの種類は、生活介護、児童発達支援、放課後等デイサービス、相談支援事業等を実施している。

(2) 実施状況 ア 福祉事業活動の(ア) 利用状況、(イ) 収支の状況を合わせて説明。

生活介護・・・定員 10 名に対して、利用率は 116%。しかし、収入は職員欠如のため、大幅に減少した。平成 30 年 6 月から基準上必要な職員 4 名に満たなくなり、報酬額の 50%という状態が、令和元年 8 月まで続いた。

令和元年 8 月に県の指導監査では、文書指摘を受け、翌月、ようやく人員確保することができ、報酬額が 100%になった。

児童発達支援・・・定員 10 名に対して、利用率は 68%。登録数は令和 2 年 3 月末で 28 名。1 日 10 名を超える利用計画は立てていたが、風邪等の病欠や保育園行事等で休むことが多かったことと、平成 31 年 3 月末で 35 名だった登録が就学により 16 名が修了し、平成 31 年 4 月は 19 名スタートとなり、1 年間で登録が 9 名増えただけだったことも利用率に影響した。令和 2 年度は 4 月 19 名でスタートし、5 月現在 6 名新規利用者が増えている。

放課後等デイサービス・定員 10 名に対して、利用率 106%。夏休みなどの長期休みの利用の方が多く、活動室が不足しており、組立ハウスを設置する（レンタル）などの経費がかかっているが、令和 2 年 3 月は新型コロナウイルス感染拡大防止のために学校が 1 か月休校になり、急遽、組立ハウスをレンタルしたことで、経費が増えている。

保育所等訪問・配置基準上 1 名の職員が必要であるが、人員が確保できておらず、休止のような状態。

障害児相談・計画相談・令和 2 年 3 月末、登録者は児童 58 名 成人 236 名合計 294 名。12 月から相談支援専門員を 1 名増員し 3 名体制になり、今後、作成件数が増えていくと思われる。

#### 年間行事等活動報告

- ・毎月 1～2 回、言語聴覚士（公認心理師の資格ももつ方）に児童発達支援の活動への指導を受けたり、利用児の発達検査をしてもらっている。
- ・8 月と 2 月に「る・トレフル主催の就学前相談会を行ったほか、南九州市教育委員会が開催する就学前相談会にも参加した。
- ・11 月 16 日に、「る・トレフルマルシェ」を開催し、ネイル・親子粘土教室・似顔絵など地域の方々にお店を開いていただいたり、舞台では、サクソフォン・クワルテット・「る・トレフル」の方々やコーラスグループの方々に来ていただき生演奏などを聴かせて頂いたりした。多くの地域の方々や利用者家族の方に足を運んでいただいた。
- ・南九州市の相談支援の事務局会議や定例会、こども部会、精神保健福祉部会、就労・生活支援部会等に参加し、南薩圏域の相談支援事業所定例会や就労支援ネットワーク会議等にも定期的に参加している。
- ・様々な外部研修に参加した。

#### ちらん敬和の郷

(1) 福祉サービス事業として、地域密着型特別養護老人ホーム、短期入所、居宅介護、訪問介護、通所介護の 5 事業を実施している。

(2) 実施状況

##### ア 福祉事業活動、(ア)利用状況

昨年 5 月末の「ちらん敬和の郷」経営改善検討委員会からの答申に基づき、それぞれの事業において、数値目標達成のため取り組んでいるが、施設入所及び短期入所については、入居者・利用者の病気入院等により目標に達しない月があったことから、年間実績としては、数値目標（施設入所 98%以上、短期入所 80%）の達成はできなかつたところであるが、目標を大きく超える月も多かったことから、概ね答申に沿った事業の展開ができたものと考えている。

居宅介護支援については、利用者確保が伸びないうえ、職員募集をしても応募

がなかったことから、本年 2 月末で事業を廃止いたしました。

訪問介護については、概ね目標 400 件を達成した。

通所介護については、年度前半はイメージアップやケアマネとの信頼回復のための活動が主体となり利用者の増が図られなかったところであるが、年度後半は、平成 30 年度に比べて、利用者の満足度も大きくアップし、利用回数の増や新規利用者の確保が図られ、収支の改善が図られているが、数値目標（70%）の達成には大きく及ばない状況となっており、今後更なる取り組みが必要と考えている。

- (イ) 収支状況については、平成 30 年度は、施設入所以外の事業はすべて赤字であったため、ちらん敬和の郷拠点区分の総計としては、130 万円弱の赤字決算だったが、令和元年度は、670 万円ほどの黒字決算となった。

引き続き、経営安定のため、かつ、利用者へのサービス向上のため積極的に取り組んで参りたいと考えている。